

平成 22 年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1 集落協定の概要

都道府県名：愛媛県

市町村名：松山市

協定締結集落名：二神集落

交付金額：5, 440 千円

協定参加世帯数：40 人（うち漁業世帯 40 人）

2 協定締結の経緯

二神集落は、豊富な魚介類が生息する屈指の好漁場を有し、一本釣り、刺し網、たこつぼ漁、採介藻などが盛んに行われている。離島というハンディを抱え、基幹産業である漁業において、漁業者の減少や高齢化が進行している。また、魚価の低迷に加え燃料費の高騰により、厳しい状況におかれている。

こうしたことから、沿岸漁業資源の維持・拡大、漁場環境の保全、漁業集落の活性化、所得の向上を目指して離島交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・キジハタの稚魚(1,000 尾)を放流した。
- ・クロアワビの種苗(2,000 個)を中間育成を行い放流した。
- ・スポアバック方式によるヒジキの増殖やワカメの海面養殖に取り組んだ。
- ・海域環境の保全と土砂の流出を防ぐために植樹先の維持管理を図った。
- ・密漁や違反操業又は違反漁具の使用等から地先資源の保護及び漁具の保全を図るため、漁場監視を行った。(年間 6 回)

②集落の創意工夫を活かした取組状況

- ・所得の向上と集落の活性化を図るため、水産物の簡易加工（グチ・エソ干物、乾燥ヒジキ）に共同で取り組み、年間を通じ様々なイベントで販売した。

4 取組の成果

- ・キジハタの稚魚を放流したことにより、地先資源の増大が期待される。
- ・アワビの種苗を中間育成し、放流したことにより地先資源の増大が期待される。
- ・ヒジキの増殖やワカメの海面養殖を行うことで地先資源の増大が期待される。
- ・植林後の維持管理により土砂の流出や、沿岸海域への栄養分の供給が期待できる。
- ・漁場監視を実施することにより、地先資源の保護が図られ、違反操業の減少が期待される。
- ・新たに水産物の簡易加工に共同で取り組むことにより、地域コミュニティの活性化が図られるとともに、イベントで加工品を販売することにより都市住民との交流が図られた。

稚魚の放流（キジハタ）	種苗放流（アワビの中間育成）
	
植樹（維持管理）	加工販売
	